



芦小だより



◆教育目標 「よく学び 心豊かに たくましく 未来を切り拓く子」
 ◆めざす子ども像 「学び合い 思いやりのある子ども」

令和7年5月29日
 芦別市立芦別小学校
 学校だより No. 臨時
 文責：松田 安弘

芦小HP→



子どものスマホ、大丈夫ですか？

4月のPTA総会で、子どものスマホについてお話をしました。

まず、大前提として、「スマホは大人がコントロールする必要があること」をお話しました。スマホを持たせている家庭では、子どものスマホの中身を確認しているでしょうか。もし、保護者に見せられないような使い方をしているのであれば、それはよくない使い方をしているかもしれません（すでに、犯罪行為やトラブルの加害者か被害者になっているかも…）。契約者である保護者が、加害者にも被害者にもならないよう、しっかりと管理する責任があります。



また、約束事は守られているでしょうか。だんだんと約束がルーズになり、困った状態になることが多いです。特に、我慢が難しい小さな子どもは、ルールや約束より「やりたい」で頭の中がいっぱいになりがちです。

そのような中で、学校へのスマホ持ち込みを安易に認めていたことについて、あらためて考えました。安易な対応が、不適切な使用の増加につながっているのではないかと、そして、子どもや家庭に間違った認識を持たせているのであれば訂正が必要ではないかと、ということです。

学校としてはスマホは必要ありません。ただ、将来使うことになるであろうスマホについて、子どもに適切な使い方を教えていくことは、保護者と協力しながら取り組んでいく必要があると考えています。すでにスマホを持たせている家庭も、これから持たせる家庭も、まずは、スマホの危険性についてよく知ってほしいと思います。ぜひ、この学校だより臨時号を子どもと一緒に読んで、ゆっくりと考える時間をつくってほしいと思います。

■トラブルは増加傾向＋低年齢化しています

スマホを使うと簡単にインターネットやSNSが利用できるようになります。また、大人の目が届かなくなることも多くトラブルも起きやすいです。まず、**どんなトラブルがあるのか、知識としてよく知っておくことが必要です。**フィルタリングをしても危険性は残るので安心してはいけません。（**トラブル事例集↑**）



■子どものSNS利用を禁止する流れ

昨年、オーストラリア政府が16歳未満のSNS利用を禁止する法案をつくりました。多くの専門家が「**SNSが青少年のメンタルヘルス（心の健康）に悪影響を及ぼす可能性がある**」とし、法律でSNSの利用を規制することを決めました。

また、アメリカでも、14歳未満のSNSを禁止するフロリダ州の規制法など、多くの州で規制する法律がすでに制定されています。

差別や過激で悪意のあるコンテンツ、フェイクやデマ、危険な事をあおるコンテンツなども「表現の自由」や「自己責任」として野放しなのがSNSです。そのため、多くのSNSの**利用年齢は13歳以上（YouTubeも13歳以上、Lineは12歳以上）**とされています。法律により保護者の認識を改め、子どもへの悪影響を防ごうとする取り組みが進められています。

■「スマホが学力を破壊する」

少し刺激的な表現ですが、DSの「脳トレ」シリーズの監修者である川島隆太教授（東北大学医学博士）の著書のタイトルです。この本では、7万人の子どもを数年間にわたって調査した結果に基づき、スマホ使用のリスクを正面から論じています。



「スマホや携帯電話の使い過ぎは勉強の効果を打ち消す」というタイトルで2014年3月に仙台市がリーフレットを発行しています（左のQRを参照）。

スマホ等を3時間以上使うと学力は下がる（2時間以上勉強していても、スマホが1時間未満の勉強しない子より平均点が低かった）という結果です。

■ ネット(スマホ)依存は病気です

久里浜医療センターは依存症の専門機関であり、インターネット依存やゲーム依存を専門診療できる国内最初の医療機関として、約10年にわたり様々な情報を発信してきました。

依存症スクリーニングテスト一覧にはスマホ依存やSNS依存などを調べるチェックリストもあります。もし、**依存しているのであれば、専門的な対応でより深刻な状態になるのを防ぐ必要があります。**（自力で改善は難しい…）

【ネット依存科】



【スマホ依存チェック】



■ 子どもの脳に与える影響

スマホ依存防止学会という学会があります。（保護者向けホームページ→）

インターネットの使用頻度と脳の体積の変化を調べたデータや、ネット依存による脳へのダメージを調べた調査から、**長時間使用により脳の成長が止まる可能性や、ネット依存では薬物依存と同様に脳がダメージを受けることが示されています。**



ネットやスマホはかつてのテレビやゲームとは全く異なる深刻さがあります。

保護者世代がスマホを使い始めたときよりも、危険度は増しています。

心身への影響としては、ギャンブルなどと同様に依存症の心配があります（脳に影響します）。学力への影響や視力が下がる心配もあります。

社会的な影響としては、犯罪やトラブルが起きやすく、簡単に被害者にも加害者にもなる可能性があります。SNSの誹謗中傷、自撮り、デジタルタトゥー、高額課金、闇バイト、オンラインカジノなどなど、**本当にたくさんの危険なことにスマホがあれば（年齢に関係なく）誰でも関わってしまうのが実態だ**と思います。



こういったことのどれ1つをとっても子ども自身が対応するのは困難だと思いますが、全ての危険性を子どもが理解して使っているでしょうか（持たせる時に理解させられるでしょうか）。「**失敗から学ぶ**」には**リスクがとても大きい**です。スマホを持たせるならば、大人が責任を持って常に管理し、**内容も確認しながら寄り添う形で失敗を防ぐのが必要**だと思います。**子どもが成人するまで間、子どもと話し合い、成長に合わせた管理をお願いします。**